

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1414
施設名	かほる保育園
施設所在地	世田谷区上野毛3-11-1
法人名	社会福祉法人かほる保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自分の体を感じて表現する

<テーマの設定理由>

幼児期の育ちにおいては、言葉による表現やコミュニケーションに加え、「こころ」と「からだ」を通じた非言語的な表現力や伝達力を育むことが重要であると考えられる。情報があふれる現代社会においては、物事を単に「ことば」という記号で理解するのではなく、実際に目で見て、においを感じ、手で触れ、自分の「からだ」全体で体験することを通して世界とつながり、そこで感じたことを「こころ」で受け止め、自分なりの表現へとつなげる力が、これまで以上に求められていると感じている。

当園ではこれまでも、音楽家による演奏会や、わらべうたの伝承者とのふれあいなど、五感を使って味わう活動を積極的に行ってきた。こうした取り組みに対する子どもたちの反応はとても意欲的であり、言葉だけに頼らない表現や、コミュニケーションに対する潜在的な興味関心は高いものと受け止めている。

こうした背景をふまえ、「身体表現（パフォーマンス、ダンス、演劇など）」や「造形活動（図形、彩色、絵画、積木など）」を通して、自分の内側から湧き上がる声や感覚に耳を澄ませ、ことば以外のかたちによる表現の意義や可能性について探求していきたいと考え、今回のテーマを選定した。

2. 活動スケジュール

8月 身体表現（4・5歳児 各1回）、造形活動（4歳児 1回）
9月 身体表現（4・5歳児 各2回）
10月 身体表現（4・5歳児 各2回）、造形活動（5歳児 1回）
11月 身体表現（4・5歳児 各2回）、造形活動（4歳児 1回）
12月 身体表現（4・5歳児 各2回）
1月 身体表現（4・5歳児 各2回）、造形活動（5歳児 1回）
2月 身体表現（4・5歳児 各2回）、造形活動（4歳児 1回）
3月 身体表現（4・5歳児 各2回）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【身体表現】

- ・四季や自然への親しみを深め表現につなげられるよう、季節の絵本を購入して読み聞かせを行い、季節の花や行事を紹介する掲示も設けた。
- ・自然物や生き物になりきって表現するための小道具として、絵具やシフォン布、大判の布（マルチカバー）を用意した。
- ・多様な動きを引き出すため、体幹を鍛える簡易トランポリンを設置した。
- ・多様な表現方法を楽しむ経験として、「ミュージカル」や「マジックと音楽と絵本のコンサート」の鑑賞機会を設けた。

【造形活動】

- ・絵画表現のために絵具を新たに購入した。
- ・見立てや造形表現の幅を広げるため、積み木と組み合わせて使える木製ビーズや幾何学形状の木製モザイクパーツを購入した。
- ・日常的に積み木遊びが展開できるよう、保育室内にマットを敷いて2.5メートル四方の積み木コーナーを整備した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【身体表現】

- ・夏の思い出をテーマに、自分の体験を身体の動きで自由に表現する。
- ・ハロウィンパーティーの世界観を全身で表現し、非日常の感覚を味わう。
- ・季節の自然物や生き物になりきって動きを楽しむ。
- ・「ぞう」「森の中のもの」「部屋の中のもの」など、みんなで一つのものになりきる表現を楽しむ。
- ・言葉に合わせて「静止」や「運動」など動きの切り替えに挑戦する。
- ・「○○くんの手のひらにみんなが乗っている」などのイメージを共有しながら、想像をふくらませて動く。
- ・ミュージカルやマジック・音楽などのパフォーマンスを鑑賞し、表現の多様性を感じる。

【造形活動】

- ・直方体と立方体の積み木を組み合わせて、空間構成を楽しむ「ジャングルづくり」。
- ・発泡スチロールをちぎって貼り合わせ、版画にすることで素材の感触と形状、色を体感する。
- ・木製パーツを組み合わせたモザイクアートで形や色の構成を楽しむ。
- ・果物やパンなどの静物を観察しながら、水彩で色や形を描写する表現に取り組む。
- ・円弧形のパーツを用いたモザイク表現や、模様をつけた円盤コマを作って回転による色や模様の変化を楽しむ。

【身体表現】

当初は、ワークショップの進行や講師の問いかけに戸惑い、どのように動けばよいか分からず見守るだけになる姿や、興奮が高まりすぎてしまう姿が見られた。また、講師の言葉をイメージにつなげることが難しく、動きが止まってしまう子もいた。そうした場面では、子どもの様子に応じてクールダウンの時間を設けたり、保育者がその子の特性に合わせた声かけを行ったことで、徐々に安心してのびのびと表現する姿が増えていった。

さらに、ワークショップがその場限りの体験とならないよう、子どもの日常のつぶやきや関心を活動のテーマに反映させたり、次回のテーマを事前に知らせ、日々の遊びやサークルタイムで振り返る機会を設けるなど、日常とワークショップが行き来するような関係性を意識して取り組んだ。そうした中で、「お友達がやるから私もやってみる」といった姿が見られたり、子ども同士で教え合ったり、お互いの表現を認め合いながら楽しむ様子が自然と広がっていった。

「〇〇くんの手のひらにみんなが乗っている」というイメージを共有して動く中で、くすぐったり振り回すような動きに笑い合う様子もあったが、たたきつぶすような表現には周囲から痛がる反応が返り、「はっ」と気づくような子どもの姿も見られた。イメージの世界を通して、他者の存在や感覚を想像しながら反応する機会となっていた。

また、演劇の鑑賞もよい刺激になっており、鑑賞後はしばらく劇中の歌を毎日口ずさみ、劇ごっこを楽しむ姿も見られた。

【造形活動】

講師の問いかけに応じて図形を組み合わせたたり、色の発色や重なり、混ざり合いを楽しんだりしながら、それぞれが自分の感性を生かした表現を楽しんでいた。活動の初めは一人での制作を楽しんでいたが、途中から「みんなのをつなげてみよう」と呼びかけて合作に発展させる姿や、お友だちの作品と見比べて色や形の違いに興味をもつ姿が見られた。

保育者が完成した作品を室内に展示し、活動に参加していない子どもや他クラスの子どもにも遊び方や表現方法を紹介する場を設けたところ、作品を作った子どもが自分の作品だけでなく、友だちの作品の特徴まで説明したり、興味を持った子が同じように作品を作って隣に飾ったりする姿が見られ、自分の表現と他者の表現の両方を楽しむ様子がうかがえた。

積み木活動では、建物や街、生き物などに見立てて構成するほか、作ったコースにビーズを転がし、その転がり方を観察しながら、友だちと協力して高低差やカーブを調整するなど、試行錯誤しながら遊びを広げていく姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めは活動に消極的な子も多く見られたが、丁寧に環境を整えることで、子どもたち一人ひとりが安心して関わり、活動がより豊かなものとなることを実感した。
- ・活動の中心にいたくとも、その場に身を置き、様子を見ながら楽しむ子どもの姿があり、その子なりの関わり方を受けとめることの大切さを改めて感じた。
- ・身体表現活動を重ねる中で、子どもたちの身体のバランスや動きが少しずつ安定し、日常の遊びの中でも身体能力の発達が見られた。活動が生きた経験として日常に結びついていることを感じた。
- ・表現活動で用いる小道具を子ども自身が作る機会を設けたことで、より一層その役になりきって表現を楽しむ姿が見られた。自分で作ったものを身につける喜びが、表現の世界を広げるきっかけになっていると感じた。
- ・日々の暮らしの中では、自分の感情が先立ち、相手の痛みや立場に目を向けることが難しい場面もある。しかし、イメージの世界では自分や相手を少し距離をおいて捉えることができ、その分想像力を働かせながら反応を返すことができたのではないかと感じた。
- ・一人での表現をじっくり味わうことを経て、友達の表現に関心を持ち、共に表現する姿へと自然に移行していく様子があった。まずは個々の思いや欲求を丁寧に満たすことが、その後の関わりや広がりにつながると感じた。
- ・保育者からの声かけに対しては後ろ向きであっても、友だち同士の声かけには前向きに応じ、積極的に輪に加わる姿もあった。子ども同士の対話的・協調的な関係性が、主体的な関わりを生む土壌となっていることを実感した。
- ・日常の遊びでは、言葉の行き違いや考え方の違いから衝突が生じることがあるが、身体や造形による表現を介した活動では、相手の表現を尊重したり、協調して一つのものをつくり上げる姿が多く見られた。こうした様子からは、言葉に頼らないやりとりが、子どもたちにとってはより自然で、互いを受け入れやすい関わりであるようにも感じられた。